

Isle of Dogs - Ataris Reise 犬ヶ島

(独・米、102分、5月10日公開)

あらすじ

20年後の日本。流行する犬インフルエンザの人間への感染を防ぐ為、メガサキ市の小林市長は全ての犬を近郊のゴミの島へ隔離する。その犬ヶ島へある日、小型飛行機が着陸した。

乗っていたのは12歳の少年アタリ。小林市長の養子で孤児のアタリは単独で、親友である愛犬スポッツを救出に来たのだ。アタリは、厳しい環境に耐え犬の尊厳をもって暮らす心優しく勇敢な5匹の犬の協力を得て、スポッツの探索を開始するが、やがて犬追放の裏にある大人の陰謀に…。



2018年ベルリン国際映画祭で銀熊賞 最優秀監督賞を得たのも頷ける。

Wes Anderson監督の美意識と物語の展開に魅了されっぱなし。多少のことに目を瞑れば、監督の抱く日本への愛もしっかりと感じられる。

とにかくストップモーションアニメが秀逸。

粘土人形を少しずつ動かして1コマごとに撮影し、多くの画像を繋ぎ合わせることで、まるで動いているかのように見せる手法の完成度が高く、出だしの、和太鼓と、それより動きの早い鐘との同時進に目を奪われ、最初から心を鷲掴みされた。

構図などの映像も美しい。

声をあてた有名俳優たちも素晴らしいし、英語日本語交じりの面白みも醸し出されているので、できれば吹き替え版ではなく、オリジナルを観ていただきたい。

娯楽なのに、美学的で、意味も深い、子供から大人までお薦めしたい映画、そんな1本です。

と、今回はここまで。次回作もお楽しみに。